

## 第25回和漢薬研究所特別セミナー

第25回 和漢薬研究所特別セミナー

# 和漢薬の薬理学的実証性と研究の新展開

一個の医療の創生をめざして

New Development of Chinese Medicine Research on the Basis of Pharmacological Evidence Supporting its Usage.

2004年  
日時 10月23日(土)  
8:55~17:40  
会場 富山県民会館 304号会議室  
富山市総曲輪4-8  
主催 ●富山県立富山医科大学 和漢薬研究所  
共催 ●富山県立富山医科大学 21世紀COEプログラム  
協賛 ●富山県立富山医科大学 和漢薬研究所  
TEL 076-434-7145  
http://www.toyama-mpu.ac.jp/mwshiken/hokusemi.html  
講師 ●松本欣三

### 和漢薬の薬理学的実証性と研究の新展開 一個の医療の創生をめざして

第25回 和漢薬研究所特別セミナー

2004年10月23日(土)

時間	座長	演題	演者
08:55~09:10		開会の辞 富山医科大学21世紀COE共催にあたり	服部征雄 富山医科大学和漢薬研究所 寺澤捷年 富山医科大学21世紀COEリーダー
<b>1. 和漢薬の薬理学的実証性(1): 脳血管性痴呆と和漢薬</b>			
09:10~09:30	嶋田 豊	1 約藤散 — その有効性の臨床的・基礎的背景 —	嶋田 豊 富山医科大学・医学部 21世紀COEプログラム
09:30~10:10		2 事象関連電位による血管性軽度認知障害例に対する約藤散の臨床薬理学的検討	小林祥泰 東横大学・医学部
10:10~10:50		3 脳血管性痴呆病態モデル系における約藤散の薬理作用	松本欣三 富山医科大学和漢薬研究所 21世紀COEプログラム
<b>2. 和漢薬の薬理学的実証性(2): 気分障害と和漢薬</b>			
10:50~11:30	柴原直利	4 不定愁訴と和漢薬治療 — 紫胡加竜骨牡蛎湯を中心に —	吉多敬明 立東大学 薬理毒理学・薬理学センター
11:30~12:10		5 脳・内分泌関連に見出された紫胡加竜骨牡蛎湯の新規抗うつ作用	清口和臣 株式会社フワフ 研究本部 医薬評価研究所
<b>12:10~13:30 昼食</b>			
<b>3. 和漢薬の薬理学的実証性(3): 糖尿病性神経障害と和漢薬</b>			
13:30~14:10	浜崎智仁	6 糖尿病合併症に及ぼす漢方薬・牛車腎気丸の影響	佐藤祐造 豊田大学・心身科学部
14:10~14:50		7 糖尿病性神経障害と漢方 — 牛車腎気丸の有効性を中心として —	亀井淳三 豊原大学・薬物治療学
<b>14:50~15:10 休憩</b>			
<b>4. 和漢薬研究の新展開: 和漢薬バイオインフォマティクス</b>			
15:10~15:50		8 網羅的遺伝子発現解析による漢方薬の薬効評価	渡辺賢治 豊田大学・医学部 東洋医学講座
15:50~16:30	清水育夫 齋 忠人	9 漢方処方のクラスター分析 — バイオインフォマティクスの応用 —	中田英之 自衛隊仙台医療センター
16:30~17:10		10 漢方医学における「証」のプロテオミクス解析	清水育夫 富山医科大学和漢薬研究所 21世紀COEプログラム
17:10~17:30	門田重利 門脇 英	総合討論	
17:30~17:40		閉会の辞	服部征雄 次期特別セミナー世話人

**連絡先**

富山県立富山医科大学  
教務部研究協力課総務係  
〒930-0194 富山市杉谷2830番地  
TEL 076-434-7145  
URL <http://www.toyama-mpu.ac.jp/mwshiken/hokusemi.html>  
●世話人/松本欣三

**入場無料**

参加ご希望の方は、当日会場にて受付いたします。  
●なお、会場内での撮影はご遠慮ください。

**会場地図**

**連携プログラム**

第1回統合医療国際シンポジウム  
「和漢薬の健康素材としての可能性」  
主催 ●富山県  
共催 ●富山県立富山医科大学 和漢薬研究所  
日時 ●平成16年10月24日(日) 9:00~17:00  
場所 ●富山県民会館504会議室

和漢薬研究所特別セミナーは、和漢医学研究の発展をめざして昭和56年(1981)に第1回を全国規模で開催して以来、今年で25回目の開催を迎えるに至った。

今回は、平成15年度文部科学省「21世紀 COE プログラム」に採択された本学の研究教育拠点形成事業「東洋の知に立脚した個の医療の創生」(拠点リーダー 寺澤捷年教授)との共催で、「和漢薬の薬理学的実証性と研究の新展開—個の医療の創生をめざして—」をテーマに研究所特別セミナーを企画した。和漢医学は元来、「個の医療」の側面を持っているが、これを客観的に利用するうえで、疾患に対する和漢薬処方の根拠を示していくことが求められている。そこで本セミナーでは、①多成分系薬剤としての和漢薬の薬能・薬効が、臨床研究においてどの程度具体的証拠として明らかにされつつあるのか、また前臨床研究ではどのような裏付けがとられ、どこまで和漢薬の作用原理・治療原理に迫りつつあるのかという実証的成果を各シンポジストの先生方よりお話し頂いた。またこれらの②和漢薬の薬理学的実証性を踏まえて、近年急速な進展を遂げている生命情報科学的方法論を導入し、「個の医療」としての和漢薬学に科学的根拠を与えようとする和漢薬先端研究の現況を紹介していただいた。